

# 堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第18号

発行：平成21年3月20日

TSOグループ(指定管理者)

## 「ふれあいの森 収穫祭」開催

2008年12月20日(土)

晴天の穏やかな太陽のもと、ふれあいの森収穫祭が開催され大勢の参加者で賑わいました。全体挨拶の後、参加者は3班に分かれ、お餅つき・森の学習・ススキ移植を順に体験。お餅つきでは威勢のよい掛け声が響き、森のガイドウォークではルリギタキやシロハラなどを観察し、鳥がやってくる樹木の解説などを行ないました。ススキ移植では、園内に生息するカヤネズミの生息地を守るため、ネザサに覆われていた場所を事前に刈り取り、ススキを移植する作業を体験していただきました。収穫祭の最後には、森の自然を味わいながら豚汁を食べ、ゆったりとした時間を過ごしました。



▲ススキ移植体験



▲餅つき体験 腰を入れて！



▲野鳥観察を中心とした  
森のガイドウォーク

### 参加された方々の声

- 自分でついたお餅が食べられてうれしかった。
- 体験がたくさん出来てお餅がおいしくて大満足です。
- 普段耳をかたわけない野鳥の鳴き声が聞けて楽しかった。
- ふれあいの森で作った野草を使ったお汁ということで、普段の食事より、とてもありがたみを感じました。子ども達はつきたてのお餅に大喜びでした。
- 自然にふれあうと子どもの顔もいきいきしてくる感じました。



## ふれあいの田んぼの 1年の様子

収穫祭で使用した餅米は、ふれあいの森の田んぼで収穫したものです。その田んぼでは1年を通してイベントを行なっています。



6月 田植え体験



8月 田んぼの生き物観察



10月 稲刈り体験



12月 しめ縄づくり

# 市民参画による

# 森づくりの計画を見直しました。

堺自然ふれあいの森では、2006年度に作成された「森の整備計画」を2008年度の堺自然ふれあいの森の運営会議(いっちゃんクラブ・大阪府立大学・指定管理者・市)で見直し、整備計画を拡充しました。今回は、その中の主な取り組みを紹介します。今後の森の変化を少しずつ感じ取りながら、散策をしてみたいはいかがでしょうか。

## 1 カスミザクラ風景区

この区域に自生しているカスミザクラを中心とした見どころを作ります。カスミザクラの生育を考え、競合・障害となる中低木の除伐や高木の択伐のほか、林床整備を行います。



## 2 ホオノキ広場整備区(旧ゾーン3)

この区域に自生しているホオノキが園路からも見ることができるよう、択伐や枝打ちをして、見通しを確保します。

## 3 かがみ池整備区

かがみ池を利用する生きものなどの多様性を高めることを目指します。かがみ池周辺の日照を確保するため、西側を除いて周囲を疎開します。また、トンボ類の繁殖場所の確保のために、縁の中低木は残します。



1

第二豊田川  
この先  
通行できません

## 5 アカマツ再生区

アカマツ林の再生を目指します。林床整備のほか、落ち葉等の腐葉土層の除去、枯れ木や中低木(ツツジ類は除く)の除伐を行います。

## 6 シリブカガシ林整備区

現在自生しているシリブカガシを中心とした常緑広葉樹林を目指します。シリブカガシ林となるよう林床整備を行います。



## 7 ヤマガラ平整区

ヤマガラ平周辺の明るさの確保を目指します。林床整備や常緑中高木の択伐を行います。

## 8 スゲ沼整備区

湿地の保全を目的に水路整備、草刈り、侵入木の伐採などを行います。



## 9 ススキ再生区

カヤネズミなどの生きものが多く生息できるススキ草地を目指します。ネザサを刈取りし、ススキを移植しました。ネザサやセイタカアワダチソウなどの侵入を抑制します。



## 10 ササユリ整備区

ササユリが多く見られるように、日照を確保するための林床整備を行うとともに、園内で採取したササユリの種子を蒔きます。



## 4 里山整備区その2

現在自生しているコナラを中心とした里山林の再生を目指します。択伐と林床整備を行います。



## ふれあいの森ボランティア いっちゃんクラブ の一年

平成20年度の全体活動の様子

4月



・総会  
・森の散策

5月



・田の代掻き  
・ネザサの撤出  
・安全講習

6月



・実生苗の採集  
・NPO法人化に向けての意見交換会

7月



・林内のネザサ刈り  
・植生調査  
・学習会

8月



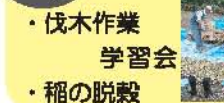
・クラフト指導学習会  
・NPO法人化に向けての説明会

9月



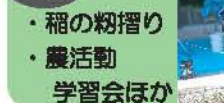
・伐木作業学習会  
・NPO法人設立のための臨時総会

10月



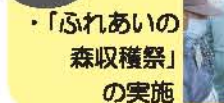
・伐木作業学習会  
・稲の脱穀

11月



・稲の稲刈り  
・農活動学習会ほか

12月



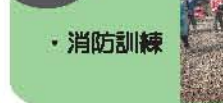
・「ふれあいの森収穫祭」の実施

1月



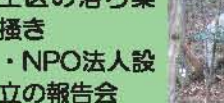
・見学研修会(兵庫県立やしろの森公園視察)

2月



・消防訓練

3月



・アカマツ再生区の落ち葉掻き  
・NPO法人設立の報告会

# コラム

## 「開園後3年を終えて 次なる展開」

大阪府立大学大学院教授 増田 昇（緑地計画学）

■人と里山との新しい付き合い方を模索する場「森の学校」をテーマに平成18年4月の開園以来丸3年が経過した。この間、堺市南部丘陵の貴重な自然環境との連続性を考えながら里山文化の再生と継承を目標に、市民のボランティア団体である「いっちゃんクラブ」、この自然ふれあいの森の指定管理者である民間企業のTSOグループ、公園の設置者である堺市、筆者が所属する地元の大阪府立大学といったいわゆる産官学民の連携のもとに里山の保全と活用を積極的に図ってきた。そのような中で活動の主たる担い手は「いっちゃんクラブ」といっても過言ではない。間伐や下刈りとともに散策路や広場などを整備する樹林管理活動、ネザサの繁茂していた水田跡地を開墾しモチ米や各種の野菜を栽培する農作業体験活動が積極的に行われ、整備された尾根みちや里みちなどによって園内が周遊できるようになるとともに、山の麓には農の風景が展開しその背景にはコバノミツバツツジが開花する明るいコナラの林が展開する里山の風景が再生されつつある。一方、植物や昆虫、野鳥などの調査・研究活動も同時に展開され、この自然ふれあいの森の生物リスト(図鑑)が整いつつあるとともにカヤネズミの生息のためにススキの移植や再生等にも取り組まれてきた。さらに市民への啓発や学習機会の提供も積極的に行っており、間伐材や刈り取ったネザサなどを活用したクラフト教室の開催や各種の体験・環境学習の「場と機会」も数多く提供してきた。特に地元堺市の小学校の校外や総合学習の絶好の場となりつつある。また、いっちゃんクラブ員相互の交流とともに自らの学習や技術の向上を目指した全体活動日が毎月1回開催されているとともに会報紙などを発行する広報活動なども行われており、各々のクラブ員が経験と知恵を生かしつつ、相互に協力し合いながら多岐に渡った活動が行われている。



■これらの活動は産官学民4者の協働の下で、まず行動目標を共有し活動計画を立案するプラン(P)、次いで計画に基づいて行動するドゥー(D)、行動の結果自然環境がどのように変化したか追跡調査し影響を評価するチェック(C)、評価を参考に次の行動計画を見直すアクション(A)のいわゆるPDCAサイクルを用いたアダプティブ・マネージメント(順応的管理)のやり方で進めてきた。



■本年2月2日にはいっちゃんクラブは任意の市民団体からNPO法人になるとともに指定管理者も本年4月からは2期目に入ることから、連携をさらに強化し、自然環境保全活動の先導的拠点となるようさらなる展開が期待される。

### 交通案内



#### ●電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側2番のりば(南海バス)  
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km  
※日曜・祝日は、堺公園墓地 直行便有り  
「堺市立霊堂前」下車 約500m

#### ●車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5Km  
「堺公園墓地」を目標に お越しください。

#### ●お問い合わせ・申込み先 ●

堺 自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地

TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811

ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺 自然ふれあいの森 TSOグループ(指定管理者)

※TSOグループは、株式会社生熊計画研究所・大阪ガスセキュリティサービス株式会社の連合体です。